

会員会社紹介

公立大学法人 広島市立大学

大学院情報科学研究科 教授
田中 宏和

大学概要

広島市立大学は1994年に設立された比較的新しい大学で、広島市中心部からバスで西に15分ほどの距離にある西風新都アカデミック・リサーチパーク内にキャンパスがあります。情報科学部、国際学部、芸術学部、平和研究所の3学部1研究所で構成されており、そのうち情報科学部は情報工学、知能工学、システム工学、医用情報科学の4学科があります。

医療・ヘルスケアIoTとボディエリアネットワーク

研究室では、医療・ヘルスケアIoT及びそのコア技術であるボディエリアネットワーク(BAN)、データ解析技術の研究を行っています。BANの技術要求である、超低消費電力、複数BANの共存、QoSの最適制御、タイムリな接続性等の技術課題に取り組み、研究成果を標準化につなげる活動を行っています。更にBANで収集したデータを用いて健康管理、診断補助に繋がる解析・アルゴリズムなどの研究、クラウドに集積されたデータ、診断・解析結果を処理・可視化するソフトウェアの研究を行っています。高齢化先進国の我が国で、

今後ICTを利用して日常生活をサポートし、自律支援を行うActive Assisted Living(AAL)の需要が高まると予想されます。本研究室の研究成果を用いた医療・ヘルスケアIoTシステム技術がより良いAALサービスの実現に役立つことを目指しています。

標準化活動との関わり

標準化との最初の関わりは企業時代にITU-T SG16で回線交換型マルチメディアシステム(H.324)の標準化への参加でした。その後3GPP、3GPP2などに参加して3G及び3.5Gのマルチメディアサービスに関する標準化に関わってきました。最近では国際電気標準会議(IEC)においてAALの標準化活動に参加し、WGコンビーナとしてAALユースケースのとりまとめを行っています。また、欧州電気通信標準化機構(ETSI)においてBANの標準化を行っています。今回TTCに入会させて頂き、再びITU-Tとの繋がりを持たせて頂けることを楽しみにしています。TTCでは電子情報健康管理SWGに登録させて頂きましたので、e-health、AAL等の分野で貢献できるように努めます。

